

晩秋通信～

24号 (2006.5)

晩秋からのお知らせ

- ・4/29 (土)、店主が日本スペシャルティコーヒー協会主催の勉強会に出席するため臨時休業とさせていただきます。ご了承ください。
- ・春のブレンド「山つつじ (中煎り、5/31 まで)」、COE コロンビア「ラ・トラルタ」好評発売中。COE ブラジル、ボリビア近日入荷予定です。
- ・平成 18 年 4 月より 19 時閉店となりました。
- ・平成 18 年 1 月より、店内全席禁煙とさせて頂いております。ご協力よろしくお願ひ致します。

カップ・オブ・エクセレンス入賞コーヒー日本上陸！！

陽気な日が続きますね。みなさんゴールデンウィークはどちらかにお出かけでしょうか？フレンチプレスやドリップパックを持参して旅先で飲むコーヒーは格別です。

旅行先でも晩秋のコーヒーをよろしくお願ひします。

さて、お待たせしました。4 月から 5 月にかけて新しい国際品評会カップ・オブ・エクセレンス (以下、COE) 入賞コーヒーが発売開始となります。

春の COE 入賞コーヒーは、ブラジル、コロンビア、ボリビアの 3 カ国。いずれもトップ・オブ・トップのコーヒーです。是非、お楽しみ下さい。

カップ・オブ・エクセレンスのおさらい

晩秋通信 19 号で説明しましたが、せっかくですから COE についておさらいをしましょう。スペシャルティコーヒー生産の可能性のある国で年に 1 回行われる国際品評会が COE です。

その国の生産者たちが手塩をかけて作ったその年のトップクラスのコーヒーが全国から出品され、国際審査員による厳正な審査のもと (スペシャルティコーヒーのカッピングフォームで) 平均評価点 84 点以上のスコアを獲得したコーヒーが晴れて入賞を果たします。このレベルのコーヒーはまさしくトップ・オブ・トップです。

この入賞だけでも国内外から高い評価を得るのですが、この話にはまだ続きがあります。入賞した全ロットはインターネット上でオークションにかけられ、スペシャルティコーヒーを求める世界中の焙煎業者により、激しく競り合われます。

オークションはその性質上どういう方向に転ぶかわからないものですが、上位、特に1位のコーヒーは通常の間業業者に引き取られる価格の10倍、それ以上の落札額がつくこともあり、その事実は「がんばっておいしいコーヒーを作れば高く買ってもらえる」と生産者の生産意欲を高めます。

それによってあるいは、周囲や近隣の生産者たちも「自分たちもがんばっておいしいコーヒーを作って出品しよう！」と生産意欲を湧かせるかもしれません。それこそがCOEの目指すべきところです。

このシステムは消費者の「少し高くともおいしいコーヒーが飲みたい」という要望と、生産者の「おいしいコーヒーを作って中間業者に安く買い叩かれないように売りたい」という要望の2つのバランスを突いて成功したプログラムです。

このプログラムを成立させるうえで重要なポイントが2つあります。1つは出品されたコーヒーが本当に素晴らしいトップ・オブ・トップのコーヒーであるということ。だからこそ、それを審査する国際審査員の選考もまた非常にシビアであり、一度選ばれたとしても次にまた呼ばれるとは必ずしも限りません。

もうひとつのポイントは、情報の透明性です。COEは情報の透明性が非常に重要です。誰が何ドルで落札したか、その農園のオーナーは誰でその農園はどういった地域なのか、国際審査員はどういった評価で出品されたコーヒーを評価し、最終的に何点で入賞を果たしたのか。これらの情報はすべて公開されます。COEの場合、落札金額はすべて生産者の手に渡ります。公開の際に不透明な部分があると、その途中でその金額を搾取しようとする輩の横行を許します。そのために情報はすべてガラス張りのようにすべて見えるものでなくてはなりません。

さて、堅苦しい話はこのくらいにして、ここから先は紹介に入りましょう。

好評発売中！！

「カップ・オブ・エクセレンス コロンビア 2005
セカンドハーベスト」6位入賞



コロンビア ラ・トラルタ

250 g パック 1600円

500 g パック 2600円

国際審査員の評価平均点数：89.43

風味特性：ストロベリーを思わせるフレーバー。クリーミーな口当り。

晩秋のマスターによる解説：

COEコロンビアと聞いて「あれ？ついこの前もやってなかったっけ？」と思われた

方もいらっしゃるかもしれません。

そう、確かに昨年の10月、COEコロンビア5位に入賞した「フィンカ・ビターニア」を販売しました。COEは年に1回の開催が基本です。しかし、コロンビアは地域によって11～2月収穫のところと、6～8月収穫のところがあり、年に1度の開催では出品できない生産者が出てきてしまい、それでは不公平ということで年2回の開催となりました。つまり、今回のコロンビアCOEは2005年度のセカンドハーベスト品評会ということになります。

コロンビア初のCOEとなった前回のファーストハーベストは、世界中のコーヒー関係者の注目を集めました。コロンビアはニューヨークのコーヒー相場のなかで「コロンビア」と「その他のマイルドコーヒー」と分けられるほど、いいコーヒーの代表格でした。かつては・・・。

しかし、生産性を追い、低級品種ロブスタとの配合種を植えはじめ、いつからかコロンビアはいいコーヒーでなくなりました。「いいコロンビアがない」これは高品質コーヒーを求めるコーヒー関係者の中での合言葉にさえなっていたほどです。

いくらCOEとはいえ、所詮はまずいコロンビアだろう？・・・そんな前評判さえありました。しかし、COEコロンビアは非常に素晴らしいものばかりが集まりました。そのことはオークションの価格が証明しています。普通COEは下位のものでも1ポンド2ドル前後で落ち着きます。ところがファースト・ハーベストでは下位のものでも5ドルでした。1位に至っては19.10ドル。ついこの間、COEブラジル1位が49.75ドルで落札されるまでCOE7年の歴史のなかで過去最高の落札額でした。

コロンビアCOEの開催は、スペシャルティコーヒー生産者と私達のような小さいロースターとのパイプライン、コネクションを作ってくれました。今、扱っているアグア・アズールもその流れで産地から買った豆です。「いいコロンビアがない」と探し回っていたときとは雲泥の差です。

今回のセカンドハーベストでは全国の仲間と6位を落札しました。ストロベリーのフレーバーが特徴の素晴らしいコーヒーです。フィンカ・ビターニアとはまた違った魅力の新たなCOEコロンビア、晩秋のお客様にお届けします。



5月入荷予定！！「カップ・オブ・エクセレンス ブラジル 2005」6位入賞



ブラジル ファゼンダ・エスペランサ

250g パック 1600円

500g パック 2600円

国際審査員の評価平均点数：90.02

風味特性（審査員評価）：チョコレート、甘味の強いベリーを思わせる、リッチなコク

晩秋のマスターによる解説：

ブラジルは、COE発祥の地で2005年度品評会は1999年の第1回開催から数えて7回目の開催となりました。広大な国土のため出品数も多く、入賞数も他国のCOEより多いのがブラジルCOEの特徴です。今回は36位までが入賞となりました。

さて、落札したエスペランサですが、国際審査員の平均評価点数が90.02点のコーヒーです。84点以上が入賞と前述しましたが、90点以上となると、フレーバーが何種類も感じられるほど複雑さを増し、より素晴らしいコーヒーが選ばれます。そのため90点以上は「プレジデンシャル・アワード」という別表彰になります。

晩秋で今まで扱ったCOEの中では、2004年度エルサルバドル2位「サンフランシスコ」、2005年度ホンジュラス4位「ラス・マリアス」がプレジデンシャル・アワード入賞に該当します。今回のブラジルCOEは、6位から上位が90点以上となり、プレジデンシャル・アワードとなりました。

この通信を書いている段階ではまだ日本に入港していないのでエスペランサの風味特性について書けませんが、私もお客様と一緒に入荷を楽しみに待ちたいと思います。



5月入荷予定！！「カップ・オブ・エクセレンス ボリビア 2005」3位入賞



ボリビア カフェ・パライソ

250g パック 1800円

500g パック 2900円

国際審査員の評価平均点数：91.50

風味特性（審査員評価）：ワイン、レッドカーラント、ブラックベリー

晩秋のマスターによる解説：

ブラジルのエスペランサでもご紹介した通り、90点以上の入賞コーヒーは別表彰（プレジデンシャル・アワード）となります。ボリビアのカフェ・パライソも同じくプレジデンシャル・アワード受賞コーヒーです。晩秋が扱うCOEの中では過去最高得点のコーヒーとなります。

ちなみに昨年のボリビアは10kgだけの入荷となり、限られたお客様にしか楽しんで頂けませんでした。今年は昨年より数が多いので多くのお客様に飲んで頂けると思います。それでも20kgですので、お早目によりしくお願い致します。

今回のボリビアCOE品評会では、事件がありました。2004年に初開催されたボリビアCOEは、コーヒーの販売価格、中間業者のとっていたマージンなどすべてをさらけ出してしまいました。これを面白くないと見た一部の中間業者が出品させないよう生産者に圧力をかけたり、サンプルを破棄したり、勝手に別のコーヒーと混ぜたり、工作を行ったのです。

COEは3日間かけて審査を絞り込むのですが、第一審査の段階で提出されたサンプルはわずか26ロット（通常は60ロット前後）でした。

かつて2001、2002年に行われたグアテマラCOEも中間業者の圧力により、開催されなくなりましたが、それと似たようなことがボリビアで起こり、関係者は胸を痛めました。しかし、生産者が命がけで出品してきた（ボリビア生産者にとって中間業者に逆らうことは死を意味します）コーヒーは全体的にレベルが高く、開催2年目のボリビアは大きな飛躍が見られました。オークションでは全19ロットが3ドル以上で落札され、比較的高値でオークションを終えました。生産者の努力に報いるCOEは、やはり旧態のやり方と衝突しがちです。

しかし、今回のオークションのような成功例を重ねていけば、いずれその国のコーヒー生産業に活路を見出せるようになると私は信じています。

ボリビアのスペシャルティコーヒー生産者が苦勞した成果、晩秋のお客様にお届けします。これまた5月入荷予定です。

【右画像：インターネットオークションの落札額の行方をリアルタイムで見守るボリビア生産者たち】

